

第1章

高大接続研究センター

三小田 博 昭

(1) 高大接続研究センター

1) 設置目的

教育発達研究科と教育学部附属学校が協同して設置した「高大接続研究センター」を拠点とし、高校カリキュラム、高大接続プログラム、入試をリンクさせながら、グローバル人材育成のための高大接続システムを研究・開発し普及することを設置目的としている。具体的には、以下に示す5点である。

- ① 高大接続に関する研究
- ② 高大接続入試に関する研究
- ③ 中等教育に関する研究
- ④ 新たな大学入学者選抜の開発
- ⑤ 高大接続に関する事業の実施

2) 期待される効果

高大接続のモデルケースの実施と普及

- ・ 高大接続型学力を基盤とする大学入学者選抜の開発と評価
- ・ 附属学校とのグローバル高大接続教育モデルの実施と開発
- ・ 高校生への大学教育等の提供等による大学へのカリキュラム接続
- ・ 高大接続プログラムの高度化とAP化による高大接続学力の実証

(2) 学びの杜・学術コース 2017の実践

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象にそれぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについてわかりやすく解説し、知の探究の厳しさと、愉しみを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」である。2017年度は下記の9講座を展開した。

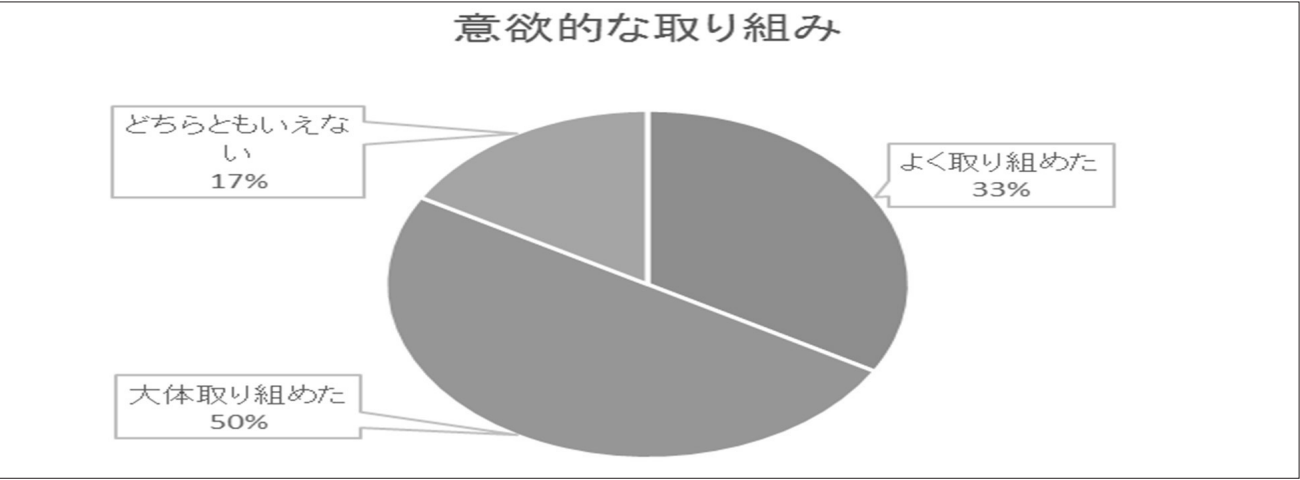
1) 学びの杜・学術コース 2017地球市民学探究講座の実践

グローバル化の中の様々な問題 ―偏見、差別、環境、病気、海外労働などを取上げながら異文化理解の方法や地球市民としてのあり方を考えるために、下記の授業を実施した。

	講義名	担当教員	所属
1	人口減少問題をどう生き抜く	小松 尚	名古屋大学
2	「草原の国」モンゴルの歴史と現在	中村真咲	名古屋経済大学
3	人種偏見・差別の心理学	高井次郎	名古屋大学
4	海外留学のススメ	星野晶成	名古屋大学
5	国民的ステレオタイプ	佐藤良子	名古屋大学
6	疾病の恐怖	福田真人	名古屋外国語大学
7	変わる中国、変わらない中国	砂山幸雄	愛知大学
8	日本人の英語教育にいおける学習不安	岩城奈巳	名古屋大学
9	気候変動の時代に生きる	杉山範子	名古屋大学
10	東洋の方正と西洋の宝石	足立 守	名古屋大学

2) 学びの杜・学術コース 2017地球市民学探究講座に参加した生徒アンケート結果

●地球市民学講座では、意欲的に取り組むことが出来ましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。また取り組めた、あるいは取り組めなかった理由も書いてください。				
1. よく取り組めた	2. 大体取り組めた	3. どちらともいえない	4. あまり取り組めなかった	5. 全く取り組めなかった
【理由】				

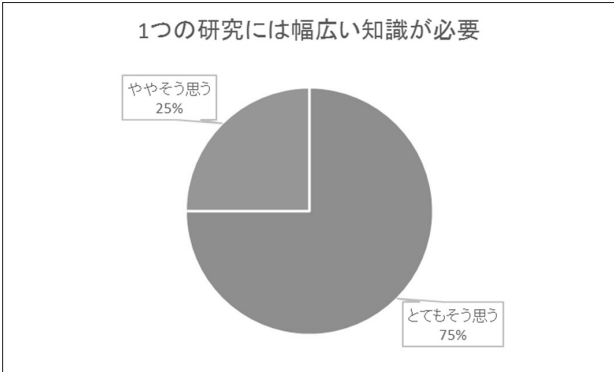
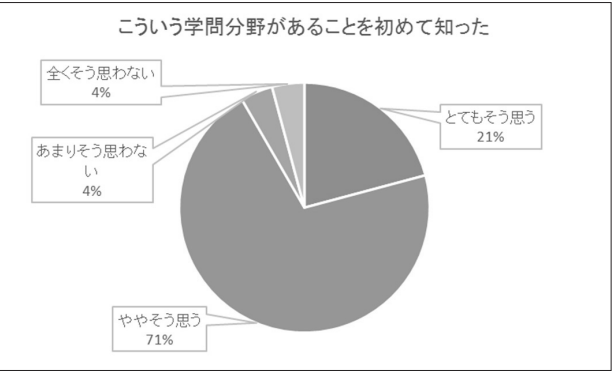


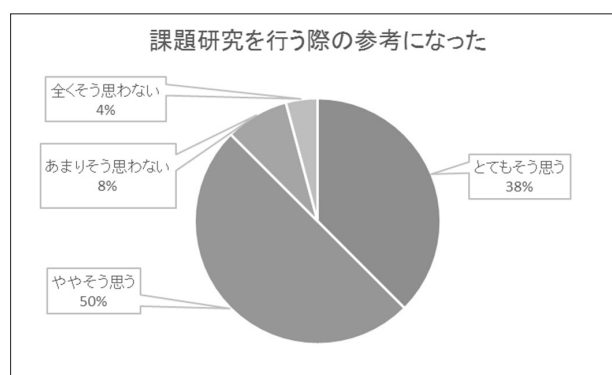
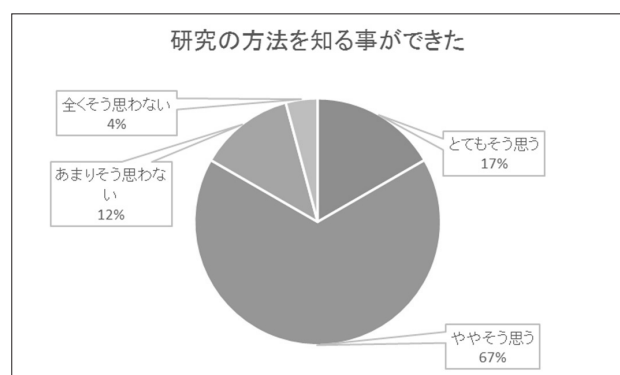
(理由)

- ・グループワークやペアワークなどで自分でしっかり考え、意見を述べる事ができたから。メモを割りと細かく取れたから。
- ・どの授業も興味深く、またディスカッションを通して学ぶ講座があり、積極的に発表したりして参加することができたと感じたため。

- ・興味があるところや驚いたところは資料とプラスでメモを取れたし、未来や昔のことを考えるときも自分でよく考えて想像してみることができ、自分で深めることができたから。
- ・先生たちの話が面白かった。歴史とか人々と地球・文化の関わり方が面白かった。

●地球市民学講座を受講し、感じたことに当てはまる番号をそれぞれの項目で1つだけ○で囲んでください。				
項目	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
① こういう学問領域があることを初めて知った	1 2 3 4			
② 1つの研究には幅広い知識が必要だと思った	1 2 3 4			
③ 研究の方法を知ることができた	1 2 3 4			
④ 課題研究を行う際の参考になった	1 2 3 4			

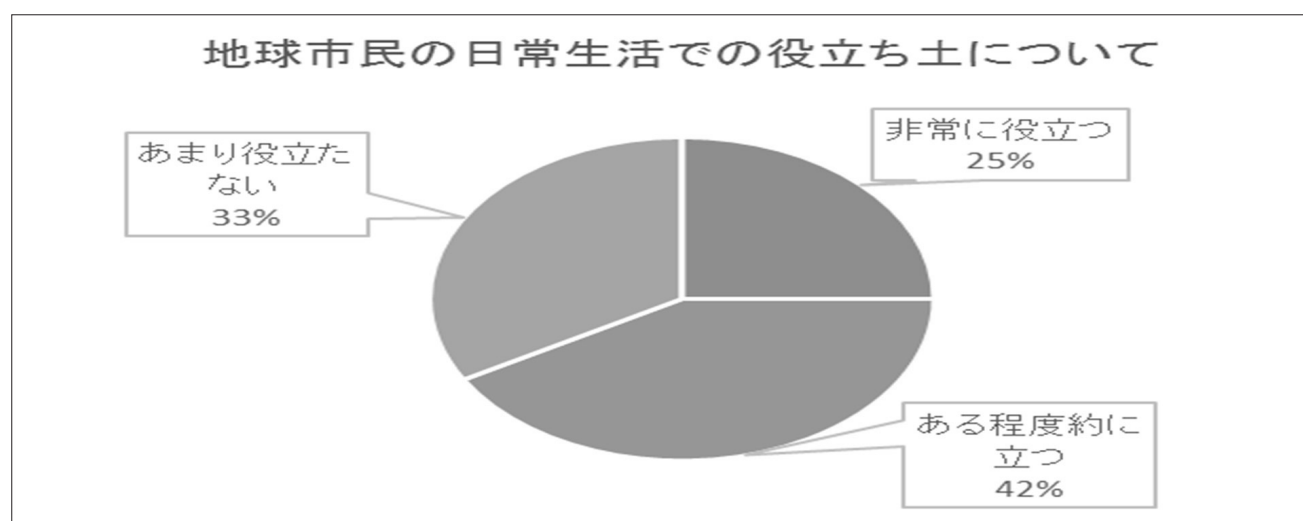




●生命科学探究講座で学んだことは、日常生活でどの程度、役に立つと考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。

1. 非常に役に立つ	2. ある程度役に立つ	3. どちらともいえない	4. あまり役に立たない	5. 全く役に立たない
------------	-------------	--------------	--------------	-------------

●問7で1～2を選んだ人のみ答えて下さい。具体的には日常生活でどのように役に立つと考えますか。自由に書いてください。



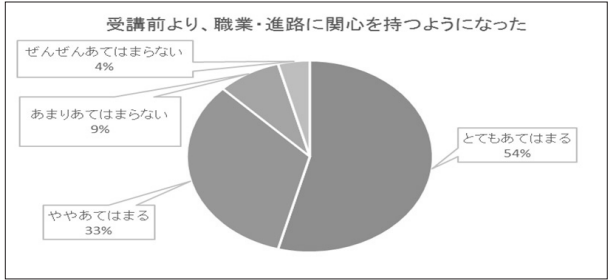
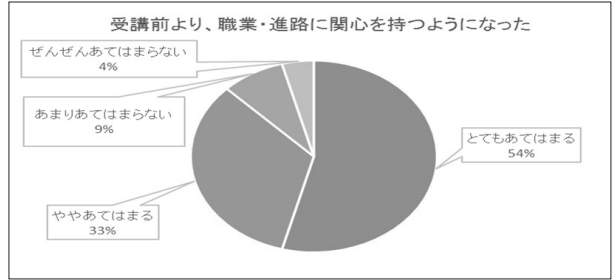
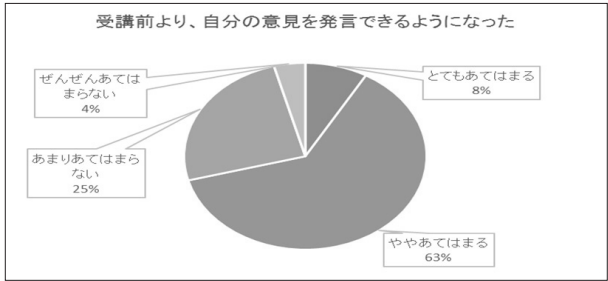
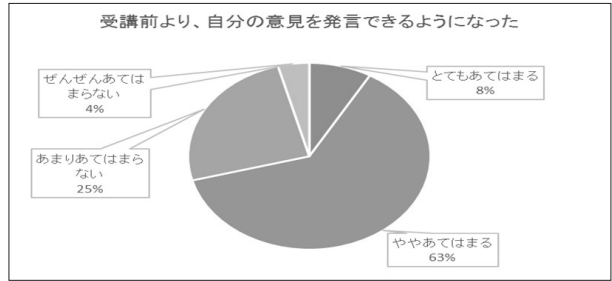
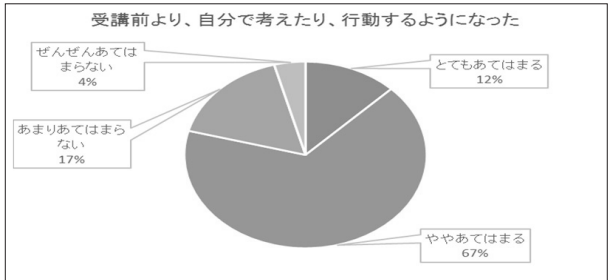
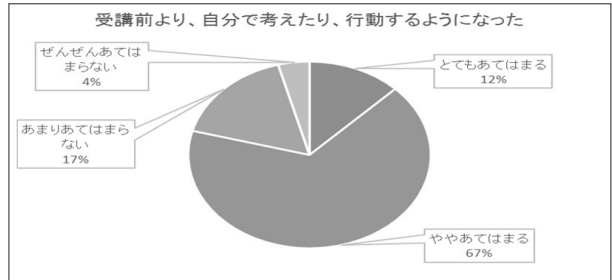
【物事に取り組む意欲について】				
●受講前と比べて、あなた自身はどれにあてはまりますか。それぞれの項目であてはまる番号に1つだけ○で囲んでください。				
項目	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
①受講前よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった	1	2	3	4
②受講前よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった	1	2	3	4
③受講前よりも、学習に対して意欲的に取り組めるようになった	1	2	3	4
④受講前よりも、自分の意見を発言できるようになった	1	2	3	4
⑤受講前よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった	1	2	3	4
⑥受講前よりも、職業や進路に関心を持つようになった	1	2	3	4

●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。

●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。

●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。

●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。



- ・印象に残ったことは3回目の講義「人種偏見・差別の心理学」で正しいと思っていたことが180度覆されて驚いた。偏見は絶対にいけないこと、でも自分もしかしたら無意識にしているのではないかと思っていたところに「偏見は自然な出来事で、身を守るために必要なときもある」ということを聞き、少し心が軽くなった。固定観念、ステレオタイプ、偏見は複雑な世界を単純化して理解するのに便利なことである。ただし、それらを差別として行動に出してはいけない。正しい認識をするためには正しい知識を得なければならないと思った
- ・我々が生きる地球は日本は人口減少、人種偏見、気候

変動など、大きな問題に囲まれているのだなと思いました。これからの未来を作るのは我々。すぐががんばっていかなければならないなと思います。⑧英語教育における不安、は自分に当てはまることが多くあり、話を聴く事ができてよかったと思いました。授業においてもそうですが、講師の先生がみなさんが英語を話していたので、すごいなーと思い、自分もあれくらいペラペラと話せるようになりたいなとも思いました。9回の授業を自分の糧にして思いっきりがんばっていきたいです。

- ・改めて自分が心理学という分野に興味があるということに気がつきました。でも心理学の中でも様々な分野

があることを知りました。また心理学以外にもたくさんの分野があり、全ての分野において様々な角度から考えているというところが共通していて勉強になりました。自分の総人の内容も様々な角度から考えていこうと思ったし、アンケートの内容等工夫しようと思いました。自分も先生たちみたいに愛を持って学びたいです。

- ・人口減少や気候変動といった地球全体の問題こそ地域単位から対策を進めなければ解決しにくいのだと分かりました。また差別・偏見はとても悪いことで私も大嫌いでしたが、「ステレオタイプ」という記憶を効率よく行うためのレッテル貼りから始まっていたことに驚きました。大事なのはステレオタイプという“意識”から“行動”に変わる前段階でただのレッテルに過ぎないことを自覚することだと考えを改めました。講義はそれぞれ興味のあったものなかったものとありましたが、受講するとお話や動画、グループワークなどで深く実体験として学習できたので終わったときには必ず関心を持ちました。地球市民学は誰かがいつかどこかで必ず感じていることを勉強するので感情移入しやすい学問だと印象深く感じました。
- ・世の中にある問題はすべてつながっているのだと実感した。1つの問題を解決するのに、ただその分野の知識やその分野における観点で扱おうとするとなかなか解決に至らない。多方向にわたり、多面的に物事を見つめることを日常的に心がけることで、今まで見てこなかったものや思わぬ解決法が見つかるかもしれない。生活している中で知らず知らずのうちに慣れてしまっていることや忘れていることが多いと思い知った。特に環境問題。自分では意識しているつもりだと思っていたが、やはりどこかでは他人事のように思っている自分がある。世の中で起きていることの「自分事」化がどれだけ重要で難しいのかということを考えることが出来た。どの問題もまわりにまわって、結局人間にかえってくる。それを念頭に「自分事」化を積極的に進めていきたい。地球市民として何が必要なのか。なにをすべきか。様々な答えがあるが、私は「地球上の問題にしっかりと目を向け、理解し、多面的に見て自ら行動していく」ことが必要なのではないかと思う。

(文責 三小田博昭)